

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和6年1月30日（火）9時30分から11時20分まで
参加者	委員：15人 事務局：11人
場 所	北部協働センター 第2・3講座室
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 生活支援体制づくり協議体会長 欠席の為省略</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1)前回までの振り返り</p> <p>パワーポイント資料を用いて、前回までの活動の振り返りをした。 認知症に関するチラシを作成し、萩丘中、葵・高丘地区に住んでいる人たちに向けて配布をする。認知症に関する各テーマにて掲載内容を協議し、発信していく。</p> <p>(2)協議体から地域への通信誌について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙面について まずは第1号となる保存版発行に関し、叩き台となる紙面に目を通してもらう。 委員より加筆修正の意見が出たため、修正箇所を確認し発行を進めていく。 ・配布に関しての確認 各自治会長に配布するにあたり、配布部数、届け先の確認を行った。 3月発行となった場合でも、配布は4月以降となる見通し。 ・次年度の取り組みについて 掲載案の一部のみ今回掲載となったため、次年度も継続して行う方向になった。 認知症について啓発となる通信誌以外も考えていくことも必要。 <p>(3)グループワーク</p> <p>Aグループ テーマ：認知症になったら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の接し方 普段の関わり・介護 ・認知症と加齢による認知力低下の違い→線引きが難しい ・顔見知りだと症状も落ち着くことがあり、認知症と意識せず普段と変わらない接し方 ・人権的な啓発 ・当事者、家族の思いを伝えられることが出来れば ・人と会うことで早めの気づきや早めの対応ができる。 近所のコミュニティ・家族のコミュニケーション ・緊張感がなくなることで認知症のリスクが高まることもある。 予防の内容になる→個人が出来ること 程よい緊張感を持つことでリスクを予防 ・認知症の症状の例 物とられ・昼夜の区別・徘徊・最近のことを忘れるなど <p>Bグループ テーマ：交流のできる場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン運営側を紹介（スタッフの思い） 立ち上げに至るまでや苦労や困りごと ・パーシモンの会をもう少し詳しく紹介 （当事者や家族の本音を言える場所であること） ・他町の友人と参加したくても同じサロンに通うことが出来ない。 協働センターなどの住民地に関わらず参加可能なサークル活動の紹介

	<p>興味を持たれた方が問い合わせする先を紹介したら良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの合同イベントがあれば良い ロコトレのサロン交流会は年1回行われている。 ・自治会からサロンを推薦してもらい取材しに行く。 ・各町にて開催されているサロン活動を自治会回覧でも紹介してみる。 <p>Cグループ テーマ：家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高丘・葵にあるサロンの紹介 萩丘・幸など →対象外の地域となる可能性もある 家庭以外で高齢者が話せる場所、圏域をこえているサロンもある ・サロンのはじめ方 飲食物・<u>金銭面</u>・<u>会場</u> 地区社協補助金 ← 公民館が多い ・ちょこっとカフェ シニアクラブが中心となっている。 集まっておしゃべりをする機会を増やす。 ・認知症の方がデイなどで自宅にいない時間の家族の居場所 家族の悩みを聞いてくれる場所の紹介 ・パーシモンのような集まりが増えるといい (家族のつらい思いを理解してくれる) いろいろな曜日や場所で、相談先・居場所があることが大事 ・家族が息抜きできる場所 ・認知症 重症になるほど支援が大変 ↓ 今までできていたことが出来なくなる(ガス・電気)食事の面で、総菜やお弁当、ペットボトル飲料でお金がかかる。 ↓ 民生委員から包括へ連絡がある。 家族が遠くに住んでいる人、家族関係が良好でない人 ・施設入所について←選択肢に入れる ・認知症の家族が苦しんでいるから (苦渋の選択) →施設入所したことで本人も家族も笑顔になれた。 ・認知症と伝えることで、阻害されるのでは？ →地域の人に伝えることで手伝ってくれるようになった。 少しのささえで家族が助かる <p>4. 事務連絡</p> <p>5. 閉会 生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>地域へ協議会から発行することになった認知症に関するチラシ紙面について、修正箇所を直し今年度末の発行を目指す。紙面のスペースの関係で今回掲載に至らなかった案もあるため、次年度も引き続き地域へ認知症に関する情報発信について協議していく。</p>